

2025年度とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都文京区大塚 2-1-1
園名	文京区立お茶の水女子大学こども園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「葉」の世界を探究しよう！



<テーマの設定理由>

【①テーマを決める】

自然豊かな環境を有する大学キャンパス内に位置し、散歩等を通して関わりを重ねている「葉」をテーマとして設定する。子どもたちの身近にある「葉」だが、各年齢によって感じ方や遊び方、探究のあり方は違うが、共通する部分もあると考える。園全体で探究するテーマとして「葉」を取り上げ、各年齢に応じた探索・探究を深める環境や援助の在り方について、検討したいと考えた。

【②問いを考える】

身近にある「葉」との出会いの中で、「～みたい」「これって何？」など、子どもたちの中から出てきたつぶやきや気づきを問いとして設定する。

【③環境をデザインする】

葉を集める、吊るす、ライトテーブルで見るなど、葉の形や特徴を味わう環境や、葉を乾かす、すりつぶす、お茶にして飲む、など葉を「味わう」取り組みなど、多様な感覚で味わう体験をデザインする。

【④探究活動を実践し、記録する】

各年齢の子どもたちが、日々の生活の中で葉と出会い、遊ぶ様子を記録する。5歳児クラスでは、お茶にしたり、香りを楽しんだりなど、葉を変化させて味わう活動を展開し、記録する。活動の様子は、動画及び写真で記録する。

【⑤振り返る・共有する】

月一回 18:30～20:00 に園内研究会を実施し、子どもと「葉」の関わりについて共有し、そこで明らかになったことについて、園内の掲示板で保護者に共有する。

2. 活動スケジュール

2025年4月～7月

- ・研究テーマの検討、事例収集、共通理解

9月～12月

- ・「葉」をめぐる多様な実践の展開
- ・「葉」をめぐる実践事例の収集、研究会の実施

2026年1月～3月

- ・「葉・自然物」をめぐる多様な実践の展開
- ・「葉・自然物」をめぐる実践事例の収集、研究会の実施
- ・次年度につなぐこと、新しく始めることの検討

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

●キャンパス内散歩時における用具・道具

- ・散歩バック（ジプロックに紐をつけたもの 牛乳パックを利用して作った物）
- ・透明 box（見つけた宝物を保管するもの）
- ・ミニ図鑑 虫メガネ
- ・スケッチ用ボード 色鉛筆 紙など

●「葉」をめぐる体験を支える素材・道具

- ・粘着面のある黒いスチレンボード
- ・葉を使ったお茶を作るための鍋、コンロ、お玉などの道具
- ・葉を飾る紐、ダンボール片、布など

●探究が深まるための環境の設定

- ・探究コーナー（5歳児保育室）の設置
- ・見つけた物、作った物、調べたことを掲示し対話する壁面「おしゃべりボード」
- ・多様な専門家との出会いと協働

アーティスト：玉方悠輝 つくりびと：杉浦正衛・宮里耕太

ハーブティー案内人：宮里梢 園芸家：宮里啓吾

●保護者への発信

- ・玄関掲示：作品の提示 活動内容の紹介
- ・園だより、ホームページでの発信：活動内容の紹介 活動報告
- ・親子体験活動の実施：ワクワクデー（ハーブティー作り・落ち葉体験）

4 探究活動の実践報告

<目次>

- 4-1 探究活動の実践報告 0歳児 [日常的な関わりの中で：葉をじっと見る・手渡す]
- 4-2 探究活動の実践報告 1歳児 [日常的な関わりの中で：あまり見かけない葉とのかかわり]
- 4-3 探究活動の実践報告 2歳児 [日常的な関わりの中で：黒いスチレンボード✦落ち葉]
- 4-4 探究活動の実践報告 3歳児 [日常的な関わりの中で：集まった落ち葉や木の枝で遊ぶ]
- 4-5 探究活動の実践報告 4歳児 [日常的な関わりの中で落ち葉のお風呂 旅物語]
- 4-6 探究活動の実践報告 5歳児 [日常的な関わりの中で：葉に触れて遊びを作り出す]
- 4-7 探究活動の実践報告 5歳児 [お茶で布を染めよう！味わい・感じ・深く知ろうとする]
- 4-8 探究活動の実践報告 5歳児 [葉っぱでお茶をつくろう！味わいの違いに気づく]
- 4-9 探究活動の実践報告 5歳児 [遠足 海辺の自然に触れる]
- 4-10 探究活動の実践報告 3～5歳児 [ハーブティーを楽しむ取り組み]
- 4-11 探究活動の実践報告 親子活動ワクワクデー [ハーブティーを楽しむ]
- 4-12 探究活動の実践報告 5歳児遠足 [海辺の自然に触れる]
- 4-13 探究活動の実践報告 全園児 [ポケットガーデンの取り組み]
- 4-14 探究活動の実践報告 保育者研修 [キャンパス内の落ち葉で遊ぶ]

4-1 探究活動の実践報告 0歳児 [日常的な関わりの中で：葉をじっと見る・手渡す]

活動の内容
<p><ねらい>「<u>葉っぱに気づき、手に取ったり、誰かに渡したりして楽しむ</u>」</p> <p>きっかけ：散歩先で葉っぱと出会った！（グラウンドにて）</p> <p>子どもの思い：散歩先で拾った葉っぱを、そばにいる誰かに渡したい…！</p> <p>そして……：葉っぱを一つのツールとして、他児とのかかわりが広がっていった。</p>
活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり
<p>【図1 葉を見つけてじっと見る】</p> <ul style="list-style-type: none">散歩先で葉っぱを見つけました。どしんと腰を落として、自分の身体の近くにある葉を1枚ずつ手にとっては、じっと見たり、優しく手のひらをグーパーしながら葉に触れたりしています。よく見ると手のひらをお皿のようにしていました。その力の入り具合といたら！指先までグッと力が入っています。『もっと見たい』『気になるな』。葉に対しての強い興味や想いが伝わってくるようです。保育者から言葉を沢山かけることはせず、葉とじっくり向き合っている子どもの姿を見守ります。ふと顔を上げる子ども、目が合うと「あう」と葉を見せてくれました。「うんうん、はっぱ、みつけたのね。」そんな言葉をかけると、ふっと笑って、視線を葉に落とします。言葉は多くはないですが、『今、心が通ったな』、そんな気持ちになる瞬間です。 <p>【図2 他児に葉を手渡す】</p> <ul style="list-style-type: none">ひとりでじっくり葉と向き合う時間を経て、保育者から葉を「どうぞ」と渡してもらった経験も積み重なったことから、他児へと葉を手渡す姿が増えてきました。葉を渡すと、満足したように、ずっとその場を離れていく姿も。渡したときに手から葉がこぼれると、しゃがんで同じ葉を拾い直し、相手の手にきちんと渡ったことを確かめ、渡された子は、手元に葉が来るまでその場に立ちどまります。相手の行動を見ているだけなのかな？渡そうとしている気持ちに気づいているのかな？渡されることを待っているのかな？保育者側もいろいろなことを考えさせられる時間です。葉を真ん中に置いて、他児とのかかわりもより広がっていきます。
画像
<div data-bbox="319 1585 711 1881"></div> <div data-bbox="336 1904 689 1939"><p>【図1 葉を見つけてじっと見る】</p></div> <div data-bbox="772 1585 1299 1881"></div> <div data-bbox="788 1904 1102 1939"><p>【図2 他児に葉を手渡す】</p></div>

4-2 探究活動の実践 1歳児 [日常的な関わりの中で：あまり見かけない葉とのかかわり]

活動の内容
<p>○落ち葉シャワー、落ち葉山を踏みしめる、帽子を隠してみる…ダイナミックな遊び</p> <p>○きれいな見つけたよ、いいもの見つけたよ…お気に入りのを見つける</p> <p>→あまり見かけない種類の葉とのかかわりをテーマに2つの事例を挙げる</p>
活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり
<p>図1 どっさり落ちていた大きな葉（アオギリ）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 保育者たちがアオギリの葉がどっさり落ちていることに感動していると、子どもたちもワクワクのまなざし！これは行くしかない！素敵な寄り道タイムが始まった。・ 葉が大きくて硬いからかがサゴソ音が大きい：足を上げて踏みしめ、音や感触を楽しむ・ ひとつひとつの葉の大きさに気づく：葉の上に座り、一枚ずつ手に取ってじっくり触る、見る、ちぎる・ 保育者が束ねていると興味をもつ：束ねて持つ(茎が長いからこそできた)うれしそうに掲げる、持ち歩く。その子を見て同じように足元の葉を掲げたり「○○も！（ほしい）」と訴える・ 振ってみたら音が聞こえる：振って感触や音を楽しむ・ 保育者をくすぐるように葉を当てて動かす・ やりとりも楽しい：保育者が顔を隠して「いないいないばあ」をする「もっかい！」と何度も繰り返したり、自分でも顔を隠してやってみる <p>図2 拾ってきたカダヤシの葉をめぐる（10月中旬）</p> <ul style="list-style-type: none">・ カダヤシの葉を拾ってきて引きずるように歩いていたA児の葉の先をB児が手にとる。・ B児は奪い取るわけでも強く引くわけでもなくそっと持っている。・ A児も咎めるようなことはなく、2人で端と端を持って中庭中を歩きまわる。・ 離れたら相手が再び手に取るのを待っている。そのうちにうれしい、たのしい気持ちになってきたのか葉を軸にして回り始め、顔を見て微笑み合っている。
画像
<div data-bbox="269 1532 525 1852"></div> <p data-bbox="277 1861 675 1939">図1 どっさりの落ち葉で遊ぶ楽しさ 踏んだ後は座ってじっくり観察</p> <div data-bbox="539 1532 793 1852"></div> <div data-bbox="879 1532 1254 1852"></div> <p data-bbox="855 1861 1362 1939">図2 1本の葉が二人を引き合わせ、葉を通してうれしい気持ちが伝わり合っている。</p>







4-3 探究活動の実践 2歳児 [日常的な関わりの中で：黒いスチレンボード＋落ち葉]

活動の内容
<p><ねらい>「<u>落ち葉の美しさや形の面白さ、粉々になった時の美しさなどを味わう</u>」</p> <p><きっかけ> 子どもたちが落ち葉で遊んだあと、細くなった落ち葉が道の上にモザイクアートのようになっている。「この美しさ味わう取り組みをしたい！」という願いをもちアートの専門家とプランを練った。</p> <p><用意したもの> 粘着面のある黒いスチレンボード</p>
活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none">・ 落ち葉を握ったり千切ったりして細かくし、粘着面のある黒いスチレンボードに上から振りかけて、無造作な配置や落ち葉の形を楽しむという想定で活動を始めた。子どもたちは集めた落ち葉の中から好きなものを選び、1枚1枚丁寧に貼りつけて、一人ひとりの個性あふれる作品を作った。・ スチレンボードに親んでもらおうと、保育者がスチレンボードに落ち葉を貼りつけて見せる。一枚ずつ貼ったり、手で落ち葉を握って細かくして振りかけてみたりする。・ 「〇〇もほしい！」と興味を持った子どもたちが集まってくる。落ち葉の山から1枚ずつ落ち葉を取り、指先を器用に使う1枚1枚スチレンボードに貼りつけていく。落ち葉を持って並べる時の繊細さとギュッと押しつけて貼りつける時の力強さを感じる。・ 赤や黄色のトオカエデの落ち葉が多い中で緑色の葉・大きい葉や形に特徴がある落ち葉など、自分なりの気に入った落ち葉を貼りつける子。以前から「きょうりゅうの あしあと」と呼んで親んできたトオカエデの葉を、1枚1枚間隔を開けながら丁寧に貼りつけていく子など、それぞれに取り組み出した。・ 保育者が落ち葉を持って両手を擦り合わせて細かくしスチレンボードに振りかけてみせると、両手いっぱい落ち葉を持ってスチレンボードに乗せ、上からギュッと押しつけて落ち葉を貼りつけていた。・ 1枚ずつ丁寧に並べるように落ち葉を貼った後、その落ち葉同士の感覚を埋めるように追加で落ち葉を貼りつけていく子もいた。・ スチレンボードに落ち葉を乗せた後、両手でスチレンボードを持って立ち上がり、腕を上下に振って張り付いていない落ち葉を落とし、残った落ち葉で「おしまいにする」と、完成させている子もいた。落ち葉を貼りつける中でスチレンボードを園庭に落としてしまい、拾い上げたスチレンボードに砂が付いていることに気付いた子は、自分が貼った落ち葉の周りについた砂を見て、「ほしみたい」と呟く。● 落ち葉を握って細かくしてモザイクアートのようにしようと考えていた保育者と、1枚1枚を大切にしたり好きな落ち葉を探して貼ろうとする子どもたちの落ち葉への関わり方や思いの違いを感じる。
画像
<div data-bbox="290 1668 737 1926"></div> <p data-bbox="290 1948 737 1989">隙間を埋めるように並べていく</p> <div data-bbox="810 1668 1308 1926"></div> <p data-bbox="810 1948 1308 1989">「ここにしよう」と場所を決めてギュッとつけていく</p>





4-4. 探究活動の実践 3歳児（日常的な関わりの中で:集まった落ち葉や木の枝で遊ぶ）

<p>活動の内容</p> <p><ねらい>「<u>葉の感触をあげたり、葉を使った遊びを楽しむ</u>」</p> <p><この取り組みを通して、願うこと></p> <ul style="list-style-type: none"> 散歩や戸外遊びの中で、実際の葉に触れることで、感触や色をあげたり、季節を感じる。 一緒に葉を集めたり、空中に舞い上げたりする中で、感じたことや楽しさを友達と共有する。 葉を使った見立て遊びをして、イメージを形にしたり伝えたりすることを楽しむ。 	
<p>活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学のお掃除の方が、落ち葉を捨てないで集めておいてくれた。落ち葉を集めて山にして、そこに入ったり、友達とかけあったりして楽しむ。 落ち葉を思いきり投げて落ちてくる葉の様子をじっと見る。「この落ち葉はゆっくり落ちてくるね」「いっぱい投げたらどうなるかな？」と、いろいろ試している姿が見られた。 葉を集めて遊ぶ姿があったので、すり鉢とすりこぎを準備し、つぶして遊ぶことができるようにした。水に浮かぶ葉っぱを混ぜることを楽しんだり、水が緑になっていく様子を見て「メロンジュースです！」とごっこ遊びに展開されたりした。 葉を集めたり探したりする中で、お気に入りの1枚を見つける。色、形、感触、世界でただ一つの1枚の葉を宝物のように持っている。「見て！」と保育者に嬉しそうに見せていた。その葉を友達との見立て遊びに使いたい気持ちと、葉を手放したくない気持ちの間で揺れる姿もあった。 こども園で焼き芋をする日。保育者が「今日焼き芋するよ！」と声をかけると、散歩中に子どもたちから「焼き芋しよう！」「たき火だ！」と自然発生的に見立て遊びが始まり、シュロの葉や落ち葉を使って、焼き芋ごっこが始まった。「もうすぐ焼けますよ！」「熱いから気をつけて！」「はい、お芋どうぞ」など、子どもたちでイメージを共有し、やりとりをしながら遊んでいた。 	
<p>画像</p>	
	  <p>・葉っぱをすり潰して遊ぶ。 葉っぱや水の変化に気づく。</p>
<p>・葉の感触を楽しんだり、友達と葉をかけあったり、もぐったりして楽しむ。</p>	
	
<p>・葉を使ったたき火ごっこにお気に入りの葉を持って来る。</p>	<p>・シュロの葉や落ち葉を集めて焼き芋ごっこ</p>
<p>たき火に入りたいけれど、葉を手放したくないという気持ちで葛藤する。</p>	

4-5 探究活動の実践 4歳児 [日常的な関わりの中で:落ち葉のお風呂 旅物語]

<p>活動の内容</p>
<p><ねらい>「<u>葉の感触を味わいながら、イメージを広げて遊びを楽しむ</u>」</p> <p><この取り組みを通して、願うこと></p> <p>旅行ごっこを楽しんでいた子どもたちが、段ボールで作った湯舟を屋外へ運んだことにより、温泉の場に広がりが生まれてくることを願った。</p>
<p>活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり</p>
<ul style="list-style-type: none"> 遊びの相談をしていた時に、「旅行に行きたい！九州に飛行機で行こう。温泉もあるんだよ」という声が出て“旅行ごっこ”が始まる。子どもたちと旅行に行く日を決めると、さっそく旅行に行くための準備が始まった。スーツケースなどの持ち物、乗り物のチケット、スマートフォン（アプリに凝る人も）、着替えや下着など思い思いに準備をしていた。 いよいよ旅行当日、自作の(自分の)荷物をもって「九州」（いつもの広場）に出かける。温泉という名の穴凹にブルーシートを敷いてゆったりつかって過ごした。 翌週、室内で段ボールを使って温泉の湯舟を作り、銭湯のようなお風呂屋さんごっこが始まる。その段ボール湯舟を、外でも楽しみたいとグラウンドまで運んで行く。季節はちょうど落ち葉の頃だった。湯舟に落ち葉を沢山集めて入れ、落ち葉の中に埋もれながら心地よく遊ぶ。 「こういう風にやると落ち葉がたくさん集まるんだよ」と雑巾がけのように集める E 児と R 児。集めてきた落ち葉をどんどん湯舟に入れていくのかと思いきや、湯舟の外側のポケットのようなところに入れていく。「このポケットにいれるの？」という、「ポケットじゃな～い。（郵便）ポストだよ。ポストに届いてから入れるの」とのこと。「温泉がポストに届くなんて素敵だね」と保育者。 湯舟の中に沢山の落ち葉を入れると、温かいようで上着を脱いで、落ち葉の中にリュックや靴も一緒に潜って、気持ちよさそうに笑い合っていた。 落ち葉は温泉だけでなく、温泉の中で焼き芋を焼いたり、枝で落ち葉を指してマシュマロを焼く真似をしており、落ち葉は色々なものに変身している。湯舟を運んで落ち葉の温泉ごっこはしばらく続いたが、段ボールがへろへろになると、湯舟はだんだん小さくなり、室内の中型積み木での温泉魚釣り、温泉饅頭屋さんなどへ発展していった。写真は 11 月下旬と 12 月初旬の一場面。
<p>画像</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">   <p>ここがポストなのね！</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>お風呂の段ボールを張り切って運んで行きました。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">   <p>雑巾掛けのようにして落ち葉を集めていく</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>

4-6 探究活動の実践 5歳児 [日常的な関わりの中で:葉に触れて遊びを作り出す]

活動の内容	
<p><ねらい> <u>「身の回りの葉っぱや自然に触れ、イメージしたり遊びを考えたりする。」</u></p> <p><この取り組みを通して、願うこと></p> <p>キャンパス内を散歩に出かけ、散策したり好きな遊びを楽しんだりする中で、自然との出会いや触れ合いを大切にしたい。季節ごとに会おう植物や、天候などの状況によってキャンパス内にある自然の見え方が変わることを味わい、手に取って観察したり遊んだりなど、関わって遊んで感じる体験を大切にしたい。</p>	
活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地面に落ちていた葉や花びらを集めていた子どもが、木の幹にそれらを付けてみると「あ、みて！くっついた！」と驚く。 ・ 雨上がりだったことから水分を含んでいたので落ちにくくなっていた。シールのようにくっついていくのに面白さを感じた子どもたちが、保育者と一緒に様々な色や形の自然物を集め始め「これはどうかな？」と試していた。紫の花びらを猫に見立て「森で遊んでいるみたい」と想像して楽しんでいた。 ・ キャンパス内の一角で、赤い実や葉っぱを見つけて摘んでいた。 ・ 手に収まらなくなるほどに集まったので、チャック付きの小さな袋を用意する。袋に入れ始めると、集めた実や葉っぱを持って「わたし迷子なの」「わたしも！おうちはどこ～？」と友達とやりとりが始まる。保育者が袋を持って「おうちはこちらです」と言うとおうちにいれてくださ～い」と言って集めたものを袋に次々に入れていた。 ・ 見つけて喜んだり、集めたりするところから、葉っぱの形から何かをイメージしてみたり、イメージしたものを物語のように想像を膨らませたりしていた。葉っぱに命を宿すようになりきったり、葉っぱを通してイメージの世界でやりとりを楽しんだりしていた。 ・ 同じ世界を友達と楽しむ遊びに、葉っぱという身近な存在が登場することが面白く感じ、どんなものも子どもの手によって遊びになっていくのだと実感する。 	
画像	
	
	
<p>木の幹に葉や花びらを付けてみる。 「猫が森で遊んでみたい」</p>	<p>袋に葉を集める。 「おうちに入れてください」</p>

4-7 探究活動の実践 5歳児 【お茶で布を染めよう！味わい・感じ・深く知ろうとする】

活動の内容
<p>〈ねらい〉 「さまざまなお茶と出会い、味わい、世界を広げる</p> <ul style="list-style-type: none">子どもたちとこいのぼり作りに取り組む方法について対話する中で、散歩先で草花を使って遊ぶ姿がよく見られることから「植物を使って染められないか」という視点で探すことにした。子どもたちの生活に身近なお茶を使って染める「お茶染め」という方法を見つけた。保育者はさまざまなお茶を紹介し、その出会いの場としてクラスでお茶会を開いた。緑茶・ほうじ茶・ウーロン茶・紅茶を用意し、一日一種類ずつ飲んで味わい、次に布に輪ゴムや結束バンドで絞り部分を作り、4種類（緑茶・ほうじ茶・ウーロン茶・紅茶）のお茶に浸して布を染めるという取り組みを計画した。
活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり
<p>〈お茶を飲む〉</p> <ul style="list-style-type: none">お茶会をするため、茶葉をティーパックに詰める時にそれぞれの茶葉の香りを楽しんだり、茶葉の見た目の違いに注目して特徴を友達や保育者に伝えたり、香りの違いでお茶を当てるゲームもしたりしていた。見た目から味を想像し、飲んでみた感想を友達や保育者に伝えていた。緑茶は「苦いけどおいしい」「抹茶みたい」、ほうじ茶は「なんか甘い」など。 <p>〈お茶についての知識を得る〉</p> <ul style="list-style-type: none">保育者がその日に飲むお茶についての豆知識を披露すると、お茶の産地（国内・国外）にも興味を持ち、世界地図や日本の地図などを見て、その場所について調べたり、国旗を描いたりする姿が見られた。 <p>〈お茶で布を染める〉</p> <ul style="list-style-type: none">お茶の色がどんなふうに布に表れるのか楽しみにしていた。染めた布を干すと、ほのかにお茶の香りがして「いいにおいする」と柔らかい表情を浮かべていた。酸化し、染めたてと時間が経過した時の布の色の変化に対し「あれ？これ何茶だっけ？」「なんか違う」と感じ取っていた。
画像
 <p>布をお茶に浸す</p>  <p>どどん布にお茶が染み込む</p>  <p>染めた布を干している</p>  <p>染めた布でこいのぼりを作った</p>

4-8 探究活動の実践 5歳児 [葉っぱでお茶をつくろう！味の違いに気づく]

活動の内容
<p>〈ねらい〉</p> <p>「自然（葉）を材料とし、お茶をつくり、味わう</p> <ul style="list-style-type: none">・ お茶染めをきっかけに、子どもたちのお茶への興味が広がっている。・ 散歩先の果樹園にあるビワの葉と柿の葉もお茶に出来るということを栄養士から聞いた子どもたちは、やってみたい、と目を輝かせた。
活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none">・ ビワの葉と柿の葉を採取し、洗って干した。ビワの葉は裏側に毛が生えているのでタワシで丁寧に取り除いた。・ 柿の葉は柔らかく、乾燥させたものと生を用意し、味の違いを楽しんだ。・ 柿やビワの実を食べたことがあるが、その葉っぱに注目したことはなく「これがビワの葉っぱなんだ！」「なんかふわふわしてる」などお茶作りを通して新たな出会いがあった。・ 柿の葉を煮出している時に「なんか枝豆のにおいがする」と気づきを言葉にしていた。どこか嗅いだことのある匂いに親しみを持っていた。・ ビワの葉茶は、色がピンクがかっており「きれい～」と目で見て楽しんでた。・ 柿の葉茶は乾燥させた茶葉と生の葉っぱの飲み比べをし、乾燥した茶葉で淹れたお茶の方が「苦い」という声があった。・ お茶がどのようにできるかを知ると、麦茶やウーロン茶、緑茶など飲んだことのあるお茶の葉にも興味を示し、学内にあるお茶の木を見に行くなどした。
画像
 <p>タワシでビワの葉の毛を取り除いている</p> <p>乾燥させたビワの葉と柿の葉を小さくちぎって茶葉にしている</p> <p>煮出した茶葉の香りを近くで楽しむ</p> <p>生の柿の葉を煮出して柿の葉茶を作っている。生と乾燥した茶葉の味の違いを楽しむ</p>

4-9 探究活動の実践 5歳児 遠足 海辺の自然に触れる 2025年9月19日

活動の内容
<p><ねらい></p> <p>「自然（葉・枝・実・干潟）と出会い、感じ、遊ぶ」</p> <p>出会う・見つける・感じる・遊ぶ体験を得る。その後の生活につなげる。</p> <p><場 所> <u>大井ふ頭中央海浜公園とその周辺</u></p> <p><講 師> 大井ふ頭中央海浜公園スタッフ2名 株式会社えんのしたスタッフ1名</p> <p><プログラム></p> <ul style="list-style-type: none">・ 干潟で遊ぶ（干潮の磯に降りる 砂浜の様子をよく見たり、生き物を見つけたりする）・ 鳥を見る（水鳥の様子をよく見る 鳴き声、泳ぎ方など）・ 広場で遊ぶ（木の枝焼きの葉を見つけて遊ぶ）・ ドングリなどを拾う（ドングリ林の中で、実を見つけて拾う）
活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none">・ 海浜公園管理棟の中に自然観察に関する掲示があり、「こんな生き物がいるの?」「すごいね」と興味津々な様子が見られた。・ 公園内を散策しながら、この地域に出没する動物（たぬき）の話聞く。・ スタッフと一緒に干潟に降りる。潮が引いていた砂浜には、貝殻が見つかる。水鳥の足跡を見つけることもできた。・ 木の实や貝殻を見つけるたびに「これは何ですか?」と、海浜公園スタッフに積極的に質問をする姿が見られた。・ 広場での遊びでは、地域で自然活動をしている講師と一緒に過ごし、楠の葉を広い匂いを嗅いで「スーッとすると感じたことを教え合う姿が見られた。・ 東京モノレール、山手線、地下鉄を乗り継いでの道中では、いろいろな乗り物の特徴に気づいたり、窓から見る景色に興味を持つ姿が見られた。
画像
 <p>大井埠頭海浜公園管理棟見学 干潟にて貝殻を見つける 干潟にて水鳥の足跡を確認</p>

4-10 探究活動の実践 3～5歳児「ハーブティーを楽しむ」 2025年12月5日

活動の内容

* 5歳児の子どもたちが、「柿の葉茶」「枇杷の葉茶」などを作って飲むことを楽しんでた。この経験をさらに広げる形で、ハーブティー体験位取り組んだ。

<ねらい>

「自然（葉・花）を材料としたお茶（ハーブティー）と出会い、感じ、味わう

出会う・感じる（見る・嗅ぐ）・味わう。その後の生活につなげる。

<場 所> 2階保育室

<講 師> ハーブティー専門家 宮里梢先生

<プログラム>

- ・ 4～5歳児 10名ずつのグループで、三種のハーブティー体験（カモミール・ミント・バタフライピー）をする。
- ・ 「バタフライピー」＋レモン汁 色が変わる（ピンクが紫色に）様子を見る。
- ・ 飲みたいハーブティーを選び、クッキーと一緒にいただく。

活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

三種のハーブティー体験（カモミール・ミント・バタフライピー）

- ・ 小さい紙コップに少量ずつハーブティーを入れる。お茶の色、香りがそれぞれに違う。
- ・ 微かな違いを味わおうと、真剣な顔で匂いを嗅いでいる。
- ・ 「バタフライピー」＋レモン汁 色が変わる
- ・ ほんの数滴レモン汁を垂らしただけで、色がパツと変わる。鮮やかな色の変わり方に、小さい歓声が上がる。「もう一回やって」とリクエストする声も出る。

飲みたいハーブティーを選び、クッキーと一緒にいただく。

- ・ 三種のハーブティーから1つを選ぶ。ミントの味わいがスツとするのが好き、と思う子が多い。飲み比べしながら選ぶ姿も見られる。

画像



お茶の葉の匂いを嗅ぐ



透明のポットでお茶をいれる。

お茶の色がよく見える

4-11 探究活動の実践 親子活動ワクワクデー「ハーブティーを楽しむ」 2025年12月6日

活動の内容						
<p><ねらい></p> <p>「自然（葉・花）を材料としたお茶（ハーブティー）と出会い、感じ、味わう</p> <p>出会う・感じる（見る・嗅ぐ）・味わう。家庭での生活につなげる。</p> <p><場 所> 2階保育室</p> <p><講 師> ハーブティー専門家 宮里梢先生</p> <p>① 10:00～11:30 親子で楽しむ 15～20分くらい（各20～30組の親子）</p> <p>② 13:00～14:30 親子で楽しむ 15～20分くらい（各20～30組の親子）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 自分でブレンドをする ハーブティーづくり（おみやげ作り）・ 親子でブレンドのテーマを決める・ 10種類のハーブから3～5種類選んでブレンド。ポウル（150ml）の少し下まで入れる。完成したらジップ袋に入れる、ラベルを書き貼る						
活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり						
<p>参加者の感想より</p> <ul style="list-style-type: none">・ ハーブにはどのような効果があるかを調べながら「風邪予防」「お腹の調子」「快眠」など、それぞれの悩みに合わせてオリジナルなお茶をブレンドして楽しみました。・ 生まれて初めての体験でしたが、とても楽しく参加しました。家族みんなで「こっちの方が美味しいね」「この色、すごくきれいだよ」と会話も弾みました。・ ハーブティーづくりでは、1つ1つの香りを嗅いで、好きな物を選びました。また、表にあった効果を参考に「お肌がスベスベになる」と選びました。・ 飲んでみると「あったかい」と幸せそうでした。飲みながら効果などについて読んであげると、「うんうん」と聞いていました。ハーブティーは、一見大人の味かなと思いましたが、2歳でも楽しめたようでした。						
画像						
<table border="0"><tr><td data-bbox="274 1447 616 1675"></td><td data-bbox="651 1447 938 1675"></td><td data-bbox="976 1447 1318 1675"></td></tr><tr><td data-bbox="293 1688 596 1816"><p>机の上に10種類のハーブティー。それぞれ効果が違う。色も形状も違うが、香りがほのかに漂う。</p></td><td data-bbox="667 1688 922 1783"><p>10種類のお茶をどのようにブレンドするかを、説明書を見ながら考える。</p></td><td data-bbox="995 1688 1299 1783"><p>スプーンですくって、マイブレンドを作っていく。親子で楽しんでいる。</p></td></tr></table>				<p>机の上に10種類のハーブティー。それぞれ効果が違う。色も形状も違うが、香りがほのかに漂う。</p>	<p>10種類のお茶をどのようにブレンドするかを、説明書を見ながら考える。</p>	<p>スプーンですくって、マイブレンドを作っていく。親子で楽しんでいる。</p>
						
<p>机の上に10種類のハーブティー。それぞれ効果が違う。色も形状も違うが、香りがほのかに漂う。</p>	<p>10種類のお茶をどのようにブレンドするかを、説明書を見ながら考える。</p>	<p>スプーンですくって、マイブレンドを作っていく。親子で楽しんでいる。</p>				

4-12 探究活動の実践

親子活動ワクワクデー「落ち葉を感じるワークショップ」 2025年12月6日

<p>活動の内容</p> <p><ねらい></p> <p>「落ち葉を感じる。遊ぶ。」</p> <p>出会う・感じる（匂い、感触、音など）・くつろぐ</p> <p><場 所> こども園玄関前スペース</p> <p><講 師> アーティスト 土方悠輝先生</p> <ul style="list-style-type: none">・ 午前・午後開催・ 隣にピザ釜コーナー 保育室2階ではハーブティー体験・ キャンパス内にある落ち葉（イチョウなど）を、講師が大量に集めて、それを玄関前スペースの一角に敷き詰めた。落ち葉集めについては、大学の協力を得て取り組んだ。						
<p>活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり</p> <p>参加者の環境より</p> <ul style="list-style-type: none">・ イチョウとその他の葉のグラデーションがとてもきれいでした。まず目で見て楽しんだ後は、落ち葉のお風呂でわさわさ遊ばせてもらっていました。落ち葉でここまで思い切り遊ぶ経験をしたことがなかったので、自然にたっぷり触れる良い経験になりました。・ ツートンカラーで奥まで丁寧に敷き詰められた葉っぱ。思わず「映え！」思ってしまいました。ご準備のご苦労を想像すると本当に頭が下がります。・ 我が家は落ち葉が好きで、登園時に玄関近くに落ちている大きな楓の葉っぱを見つけて「ママ、これ傘になるよ」と教えてくれたりします。・ 葉っぱ遊び。全身全霊で楽しんでいました。両手いっぱいイチョウの葉を集めて、自分の軌跡にひらひらと银杏の葉を舞わせながら、「ゆぶね」に運ぶことを何度も楽しんでいました。その姿は、秋の妖精のようでした。帰宅後、髪やコートに入り込んだイチョウはなかなか取れませんが、子どもたちの笑顔に免じて一枚、一枚とる母でした。素敵な秋の1日をありがとうございました。						
<p>画像</p> <table border="0"><tr><td data-bbox="252 1554 673 1865"></td><td data-bbox="715 1554 1038 1787"></td><td data-bbox="1050 1554 1366 1787"></td></tr><tr><td data-bbox="252 1888 574 1948"><p>奥にある「落ち葉遊び」のコーナー グラデーションが美しい</p></td><td data-bbox="730 1800 1023 1895"><p>アートの専門家、土方先生 作の「透明の家」にも落ち葉 が入る。</p></td><td data-bbox="1070 1800 1334 1861"><p>バスタブにも落ち葉。 カシャカシャという音がする。</p></td></tr></table>				<p>奥にある「落ち葉遊び」のコーナー グラデーションが美しい</p>	<p>アートの専門家、土方先生 作の「透明の家」にも落ち葉 が入る。</p>	<p>バスタブにも落ち葉。 カシャカシャという音がする。</p>
						
<p>奥にある「落ち葉遊び」のコーナー グラデーションが美しい</p>	<p>アートの専門家、土方先生 作の「透明の家」にも落ち葉 が入る。</p>	<p>バスタブにも落ち葉。 カシャカシャという音がする。</p>				

4-13 探究活動の実践 全園児「植樹・ポケットガーデンの取り組み」 2025年12月3日
2026年2月19日

<p>活動の内容</p>	
<p><ねらい> 「木々や花苗が育つ場に立ち会い、日々触れる」 出会う・感じる（匂い、感触、音など）・成長に触れる・世話をする <場 所> 大学キャンパス内各所 <この取り組みを通して、願うこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文京区立お茶の水女子大学こども園設立 10 周年の記念として植樹をする。 ・ 小さな苗木や草花が育つ様子に日々触れることで命の尊さを感じる。 ・ 蝶や虫など小さな生き物を呼び、キャンパス内に潤いをもたらす。 ・ 実のなる木を植えることにより、学内で過ごす子どもたち、学生たち、及び区民はもとより来校の様々な人々の喜びとなる。 	
<p>活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり</p>	
 <p>お茶大キャンパスの新名所！ 8つのガーデンを見つけれられるかな？ 子どもたちが知っていますよ。</p> <p>大学の授業（環境デザイン論）の取り組みとして展開された『ポケット・ガーデン創生プロジェクト』では、大学内の8箇所に、学生たちの手によって創意工夫したガーデンが誕生しました。こども園の子どもたちは、散歩の途中に花たちを見て「咲いてきたね」と話したりお水をあげたりしています。散歩の楽しさが広がっています。</p>	<p><1月園だよりで紹介> 大学生と園児、教員が協力して植樹やガーデン作りをした。その後、毎日散歩に出かけるたびに、ガーデンの場所を通り、成長の様子に気づいたり、水やりをしたりしている。</p> <p>2月には、さらに苗植えをした。春を楽しみにする気持ちが広がってきている。</p>
<p>画像</p>	
	<p>ミモザ、ミツマタの苗木周りに、沈丁花などの花苗を植える。植木屋さんから、直接、植え方の指導を受ける。 春を楽しみに、優しく苗を植えている。</p>

4-14 探究活動の実践 保育者研修「キャンパス内の落ち葉で遊ぶ」 2025年9月27日

活動の内容
<p>土曜日保育に出席した子どもと全職員で「葉」をめぐる研修会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none">身近な素材としての「葉」の魅力についての講義 出会い、かかわり、深めていくための環境や援助の工夫についてキャンパス内を散策し「葉」を収集。「いれる」BOXの活用体験。
研修中の保育者の姿・声など
<ul style="list-style-type: none">講義を終え、キャンパス内を散策すると、改めて、キャンパス内にある様々な葉に目が止まり、「きれいなね」と感じたことを語り合ったり「この葉っぱ、いい匂いなんだよね」と気づきを伝え合ったりする姿が見られた。木の枝を広い、そこに葉を突き刺して、その数を競う「焼き鳥ゲーム」では、何枚も落ち葉が突き刺さり出すと楽しくなり、夢中になる様子が見られた。「これは面白いね」「遊びになっているのがいいね」という声があがった。講師考案の落ち葉入れケースに落ち葉を入れると、光をようして落ち葉の美しさを感じられた。光が差す場所で見ると自然の美しさを感じ合った。
<10月園だよりに職員研修の様子を紹介>
<p>9月27日(土)職員研修 講師を招きキャンパスの中に出かけました。黒いボードにお気に入りの葉っぱをつけたら、枝に葉を突き刺してその数を競う「焼き鳥ゲーム」をしたり。子どもたちとこんなこともあんなこともしたいな、と夢が広がるひと時。夢中になって遊びながら、「落ち葉の魅力」を存分に味わいました。成果は玄関に飾ってあります！</p> 
画像
 <p>足元に注目すると新しい気づき</p>  <p>透明ケースに光が刺して美しさが際立つ</p>

5. 振り返り

14の実践事例を紹介し合い、気づきについて語り合った。その中で出たことを以下にまとめる。

「葉」に焦点を当てて、過ごしたことの意味

- 指先で感じる葉っぱ。一枚の葉を、拾い上げ、ちぎり、バラバラにする。落ち葉の身体中で感じる葉っぱ。山に潜り込み、寝そべる、放り投げる。遊びが先か、葉っぱが先か。葉っぱと出会うことで、世界と出会っているのではないかと感じられる。
- 5歳児のお茶作りでは、「作る」ことで、一步、葉っぱの奥に入ることができたように思う。冷えたら美味しいということや、びわの葉茶はピンク色になることなど、やってみてわかった。子どもたちの「やってみよう」を見逃さず伴走することで保育者自身も探究する機会となった。
- 自然に関わる取り組みは手を手をかけることがいろいろある。そこに幼児教育の意味があると感じた。
- 落ち葉との出会いは、即興性の遊びが引き起こされやすい。形が違う。日々変わる。昨日と同じ場所がない。既製品では味わえないものがあることを実感した。

0歳から5歳の子どもたちと葉っぱとの関わりを通して見えてきたこと

- 0歳、1歳、2歳の子どもたちは、言葉だけではなく、モノや人との距離の取り方、体の動きで語っている。3歳、4歳の頃の子どもたちは、手当たり次第どんどん取り込んでいく。遊びの中で活用してそのものを知ろうとしている。葉と関わりながら物語を紡いでいる。そして、5歳になると、もう一度、静かに葉と対面している。お茶作りという形で葉を暮らしの中に取り込んでいく。年齢とともに新しい視点が加わっていくが、子どもの行為は循環していくことがわかった。
- 成長に伴い遊びの段階は広がっていくけれど、根元にある「面白さ」は繋がっている。子どもと日々過ごしている時にはわからなかったことが、このように記録を整理し、0歳から順々に辿っていくと見えてきて、さらに子どもたちの様子を細かく見ていきたいと思った。

